

ボランティア部門 (国際)



たきたに のぼる

瀧谷 昇 NPO 法人 NGO アフガニスタン義肢装具支援の会 理事長

義肢装具士として、日本で不要となった義足をリサイクルし、地雷やロケット弾等で足を失ったアフガニスタンの人々へ、一人ひとりに合わせた義足を送り届ける活動に尽力している。また、アフガニスタンで義肢装具専門学校を開設するため、現地の人材育成にも力を注いでいる。

推薦者 今井 光子 奈良県議会議員 厚生委員会 委員

アフガニスタンに義肢装具を 製作できる学校の設立を計画。

瀧谷昇氏は、1974年から1年間 JICA国際協力事業団の義肢装具製作指導教官として、アフガニスタンに滞在し、戦争によって多くの人々が足を失っている事実を知り、以来義肢装具士として一人ひとりに合った義足を送る活動を続けている。

瀧谷氏は、アフガニスタンで日本では得ることのできない「人間としての心の豊かさ」や「与えるのではなく与えられたことの大ささ」など、目では量りることのできないものを得たという。「アフガニスタンは第二の故郷」であり、目の当たりにした現状を憂いて、少しでも恩返しをしたいと考えるに至り、活動を開始した。

しかし、活動を始めるにあたり、具体的にどうすれば良いのか解らず、試行錯誤の連続の中、報道特集で放送されたことよって、アフガニスタンのことを知りたいという個々の人々、団体、小・中・高等学校、教育委員会等から講演会の依頼があり、アフガニスタンについて話す機会を得て、それが啓蒙活動となっている。

そして、この呼び掛けに、賛同し資金援助をしてくださる方々や、義肢装具製作を学ぶ若者を中心とした、約45名の参加協力を得て2002年3月「アフガニスタン義肢装具支援の会」を発足した。

日本で不要となった義足をリサイクルし、現地で義足を必要としている人へ

届けるという活動をしている。

現地では一人ひとりの型取りをし、リサイクル部品を利用して、きちんとした義足を届けている。また将来、アフガニスタンの人々が自らの力で義足を製作できる学校をつくることを計画している。



■義肢装着作業



■アフガニスタン現地